

(書評) 野邊政雄著『高齢女性のパーソナル・ネットワーク』

著者	眞鍋 知子
雑誌名	社会学評論 = Japanese sociological review
巻	58
号	3
ページ	381-382
発行年	2007-12-31
URL	http://hdl.handle.net/2297/17023

(御茶の水書房、2006年、A5判、334頁、6,720円)

(金沢大学法学部准教授)

第1章「執筆意図と構成」では、研究の経緯、目的と意義が述べられる。第2章「高梁市の概要」では、調査対象地の人口動態、就業者の産業別・職業別構成、人口の空間構造が、国勢調査等の統計資料から検討されている。第3章「調査の概要と標本特性」では、『高梁市高齢女性調査』の枠組み、パーソナル・ネットワークの測定方法などが説明されている。第4章「市街地に住む女性の暮らし——事例調査による研究」および第5章「高原部に住む女性の暮らし——事例調査による研究」では、質的データが検討されている。そこでは市街地に住む家族構成と社会階層の異なる高齢女性の7事例（第4章）や高原部に住む家族構成と健康状態の異なる高齢女性の7事例（第5章）などから、パーソナル・ネットワーク、主観的幸福感等の聞き取り調査の結果が提示されている。第6章から第12章までは、量的データが検討される。第6章「高齢女性のパーソナル・ネットワークの基本的特徴」では、ネットワークの規模などが知見として得られている。第7章「都市化が高齢女性のパーソナル・ネットワークとソーシャル・サポートに与える影響」では、地域の人口規模がパーソナル・ネットワークに与える影響が探究されている。第8章「階層的地位とパーソナル・ネットワーク」では、年収がパーソナル・ネットワークにどのような影響を及ぼすかが解明されている。第9章「高齢女性はサポートを

仰ぐ相手をどのように選択するか——階層的補完モデルの検証」では、各種社会関係の間に階層的な補完関係があるかどうかを検証されている。第10章「高齢女性と別居子との関係」では、別居子との距離や性別といった個々の子どもの属性が老親子間の交流にどのような影響を及ぼしているかが追究されている。第11章「集団加入と伝統的地域集団の活動参加」では、都市度、学歴、現住地居住期間、年齢、就業の有無、活動能力による集団加入の相違に着目し、多くの貴重な知見を得ている。第12章「主観的幸福感」では、パーソナル・ネットワークや集団加入が主観的幸福感に及ぼす影響が探究されている。第13章「本書の結論」では、全体のまとめが整理されている。

評者が関心をもったのは、従来のパーソナル・ネットワーク研究においては等閑視されがちであった集団加入の様態を取り上げ分析している点であり、高く評価できる(第11章)。ただし、集団加入がパーソナル・ネットワークを形成するものとして自明視されているためか、ここまで取り扱ってきたパーソナル・ネットワークと、本章で取り上げる集団加入が、どのような関係をもつかが明確にされていない。集団加入をとおしてどのようなパーソナル・ネットワークが形成され、維持されるのかというメカニズムを解明してほしかったと思う。本書では高齢女性を中心としたエゴセントリック・ネットワークとしてパーソナル・ネットワークを切り取っているが、ソシオセントリック・ネットワークを抽出することで、高齢女性がサポートを入手する相手どうしの関係を記述してみることも興味のある点である。

このように本書では、全体を通して、実証データの分析から数多くの知見が提示されている。その知見の積み上げが、全般的に緻密で手堅い手法で論述されているという印象をもたせる。しかしそれにとどまらず、これらの知見をもとに行政への政策的提言にまで踏みこむという意欲的な側面もあり、本書のもつ意義は大きい。今後、高梁市の高齢男性の調査が実施され、高齢女性との比較研究で新たな知見が蓄積されることを期待したい。

